



横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ

Since May 13, 2006

創立15周年記念号

「あなた方の間で苦勞し、主に結ばれたものとして導き戒めている人々を重んじ、また、そのように働いてくれるのですから尊敬しなさい。互いに平和に過ごしなさい。(テサロニケ5:12-13)

～2021年度横浜YMCA基本聖句～

今月の成句

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす」

ルカによる福音書10・2-3

6月本例会

日時 6月25日(金)17:00～
場所 かけはし都筑 (ZOOM併用)
司会 今城宏子 受付 横田孝久

～プログラム～

1. 開会点鐘 会長
2. ワイズソング・ワイズの信条 唱和
3. 今月の聖句・祈祷 チャプレン
4. ゲスト・ビジター紹介
5. 会長挨拶 会長
6. 卓話 ロバート・エスキルドセン氏
「幕末と明治のキリスト教と
宣教師、横浜を中心にして」
7. 協議・報告事項 (行事予定)
8. YMCA報告
9. Happy Birthday
横田さん (6/10)
11. スマイル・アピール
12. 閉会点鐘

《巻頭メッセージ》

相賀 昇

つづきクラブ創立15周年に寄せて—新たな夢と幻をもって

毎年5月に迎える創立記念日はキリスト教会の誕生日である「ペンテコステ」(聖霊降臨祭)の時期と重なります。実はペンテコステはユダヤ教の「五旬祭」という祭りに起こりました。五旬祭とは「刈り入れの祭り」とも呼ばれ、小麦の収穫を祝うものでした。その日、使徒ペトロはヨエルの預言「若者は幻を見、老人は夢を見る」を引用。このことが聖霊降臨によって実現したと公然と宣言したのです。



「夢」という言葉にはどこか荒唐無稽なおもむきがありますが、苦しい現実を超えて将来に明るい希望を見させる響きがあるのは確かです。かつてキング牧師が「私には夢がある」と叫んで、虐げられた黒人の人々を励ましたときの「夢」も将来への希望であり、ヴィジョンでありました。人間中心の将来計画はどんなに良い夢と書いていても人偏が付いてやがて儚くも消えて行きます。しかし、神様が与えて下さる夢は必ず人を本当の平和と幸福へと導く夢です。

コロナ禍の経験は様々な人生に対する態度を動揺させ、世界の全体像に対しても大きな疑問を投げかけています。同時にこのパンデミックから学んだことは、お互いに配慮しあうことの大切さであり、日頃あたりまえとしてきた小さなことに感謝する生活ではなかったかと思います。

ペンテコステが起きた日は、小麦の収穫を感謝し、その初物を神様に捧げる祭りの日でした。そこに聖霊が降されたことは、これから始められる伝道や奉仕の働きが、豊かな刈り入れと収穫を期待することができることを意味していたはずですが。神様は私たちにまず聖霊を与え、それによって人格の力、奉仕の力、連帯する力という豊かな賜物を内側に生み出し、実りと収穫へと導いてくださいます。「すると、…若者は幻を見、老人は夢を見る」(使徒言行録2・17)。神様の愛にもとづく夢と幻こそが、コロナ禍にある私たちに常に新たな始まりへの力を与え、豊かな実りへと導いてくれるのではないのでしょうか。(完)

横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの創立15周年にあたり、皆様より暖かいお祝辞を頂きました。



横浜YMCA総主事
佐竹 博



横 浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの皆様、いつもYMCA運動にご奉仕とご協力を賜りありがとうございます。ございます。

15年間の積み重ねは、横浜YMCAと地域に、貴クラブの存在感と活動実績を確固たるものにされました。まことに力強く、横浜YMCAにとって心強い存在と感じています。貴クラブのお働きの中で印象的なところを感謝と共に述べさせていただきます。一つは地域に向けた独自の活動をされていることです。You & Iコンサートは、誰もがともに音楽を楽しむ場を提供しようとされています。東日本大震災復興支援では、独自に宮城県山元町の福祉施設と交流を持ち支援されています。北YMCAをはじめとした横浜YMCAの諸活動への参加、協力に加え、独自の活動をされていることに、バイタリティの強さを感じます。そして、それぞれの活動がキリスト教的価値観を重んじ「隣人になろう」とされていることに私たちも刺激を受けています。もう一つは、「クラブメンバーが硬直化しないように、自分たちに居心地のよい閉鎖的なクラブにならないように気をつけている」と、鈴木会長のコラムにあったクラブの在り方です。ボランティア活動をする組織が存続し、活動を継続していくことは、支援を受けている地域や人々にとってとても重要なことです。仲の良い組織ほど、硬直化の課題による、活動の先細りにつながる危険をうちに抱えます。その点、貴クラブはいつも新しくいることを目指し、心掛けています。次の15年もその次の15年も、さらにその次も、、社会に働きかけつつけていることだろうと、皆さまの志に尊敬の念を抱いております。

貴クラブの活動が充実し、ますます発展されること、クラブメンバー皆様のご健康が守られますことを心からお祈りいたします。

これからも地域社会のために横浜YMCAとともに働き、ともに歩んでまいりましょう、15周年、本当におめでとうございます！



ワイズメンズクラブ
国際協会
東日本区理事
板村哲也
(東京武蔵野多摩クラブ)



創立15周年おめでとうございます

横 浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの皆さま、創立15周年を迎えられましたこと、誠にありがとうございます。心よりお慶び申し上げます。

貴クラブにおかれましては、先駆的なクラブ名と体制で創立以来今日まで時代の変化や多様化する社会のニーズに対応しながら、横浜YMCA、横浜北YMCAと共に地域に根差した様々な活動を積極的に展開しておられます。また、東日本大震災復興支援活動など、幅広い分野で継続的に熱心にボランティア活動を実施して来られました。仲良く楽しく、かつ端正なクラブ運営で15年間密度の濃い内容で社会に貢献しておられます。また、部のみならず東日本区の発展にも大きく寄与・貢献して下さっています。

これもひとえに歴代の会長ならびに会員の皆さまのたゆまぬご努力の賜物であると深く敬意を表します。

私たちを取り巻く環境は常に変化しています。新型コロナウイルスは環境への適応の重要性、環境の変化に適応しないものは、生物も人間も組織も淘汰され、衰退、滅亡するという地球40億年来の現実を改めて私たちに思い出させました。

貴クラブがこれまでに蓄積されてきた豊かな経験、ノウハウ、人々との繋がりを基に、環境が求める新たなスキルとツールを身に付け、これからも時代を切り開き末永く活動・発展を続けられることを願って止みません。

最後になりますが、横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの皆さまのご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉と致します。

《お祝辞》

《会長挨拶》

ワイズメンズクラブ国際協会

湘南・沖縄部長 古田和彦

(横浜クラブ)



創立15周年おめでとうございます

2006年5月13日にチャーターされ、晴れて15周年をお迎えの横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブのみなさまに心よりのお祝い申し上げます。

貴クラブは、あらゆる面で部内に新風を巻き起こしてくださっています。

まず、唯一、「メン&ウィメンズクラブ」との名称を冠し、従来の男性中心クラブから女性も同様にクラブメンバーとして受け入れることを明示しておられます。そして、15年に亘る活動において遺憾なくその名称にふさわしく活動されておられますことに敬意を表します。さらに、「You & I コンサート」を企画し、多くの地域住民の皆様をも巻き込んで10年以上にわたり展開されていることや、東日本大震災被災者支援活動として宮城県亘理郡山元町への継続訪問など、しっかりと地に足をつけた地域活動を着実に進められていることは、部としての誇りであるとともに、部内各クラブへの大きな刺激と励ましを与えてくださっています。改めてここから感謝申し上げます。また、横浜YMCAの国際チャリティランやエイズ文化フォーラムなどへの率先参加・協力にとどまらず、横浜北YMCAの強力な支援グループとして運営委員を輩出するほか、日頃からYMCAとの深い協力関係を構築されていることも私たち部内各クラブへの良い手本となっています。

さて、この1年ほどはコロナ禍のためそれぞれ十分な活動や交わりができませんでしたが、その中においても、貴クラブにおいては、この1月に新しい会員をお迎えできたことも15周年にふさわしい喜びと存じます。本来なら、対面でお会いし、共に15周年をお祝いしたいところですが、この事態です。ここは我慢し、一日も早くコロナを乗り越え、共に感謝の杯を酌み交わす日を待ち望みましょう。

持続可能なクラブ運営・新たな15年に向けて！

会長 鈴木 茂

横浜つづきクラブは2006年5月13日にチャーターされ、本年5月に創立15周年を迎えることになりました。まだまだひ弱なクラブであり、高齢者ばかりのよたよた歩きのクラブですが、15年の歴史を刻むことができましたことは、東日本区、湘南・沖縄部をはじめとするワイズの方々の暖かいお支えがあったからこそと、改めて感謝申し上げます。

しかし、この15周年に当たって自らのクラブの現状を冷静に観察しますと、残念ながら決して活気ある元気なクラブとは言い難いように思われます。この機会に当クラブは、次の新たな15年に向かって、持続可能な強靱なクラブ作りを目指した自己改革を行なう必要があります。

皆さんご存知のように国連総会は2015年9月、2030年までの15年間、世界各国が達成に向けて取り組むべき「持続可能な開発目標（SDGs）」を満場一致で採択しました。このSDGsは貧困や飢餓を終わらせ、人権やジェンダーの平等を守り、地球環境や天然資源を持続可能な方法で管理することを目指した17項目の目標を定めています。わが国でも最近では、政府をはじめ各自治体や民間企業・団体・個人の段階で、SDGsへの関心が高まり、さまざまな対策に取り組み始めていることは喜ばしいことだと考えています。

ところで国連はこのSDGsを推進するにあたり、「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓いのキャッチフレーズとしています。この誓い通りにSDGsの目標を達成するためには、何よりもまず世界の平和を守り抜くことが前提になると思われます。

私たちのつづきクラブにおいても、持続可能なクラブ運営を実現するためには、これまで以上に新規会員の増強に注力するとともに、新入会員に関し、SDGsと同じ精神すなわち「誰一人取り残さない」という姿勢で臨むことが不可欠と考えます。もちろんこれは、新入会員に対して波風を立てないように適当な処で妥協せよということではなく、新入会員をはじめクラブの中で弱い立場にあるメンバーに配慮しつつ、クラブ運営を図ることが大切であることを意味します。そのうえでこそ、真に望ましいメンバー間の絆、YMCAとの絆そして地域との絆が形成されるものと信じます。

HAPPY
Anniversary

私達、横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの特徴の一つは、地域社会に根差したCS活動です。横浜YMCA、横浜北YMCAとの繋がりは強固で、様々な会議体への委員派遣やプログラムへの参加は私たちの活動の基礎となっていますが、一方、地域の様々な団体、グループとの連携も確固たるものがあると自負しております。老人施設での傾聴活動、グループホームでの調理ボランティアや障がい者の送迎などを行ってきました。また、私達が続けてきた「You & Iコンサート」にはYMCAを含む団体、グループの方々関わって下さっています。今回、ご一緒に働いて下さるグループの方々よりメッセージを頂きました。

NPO法人

アーモンドコミュニティネットワーク

水谷裕子

皆さまと初めてお会いしたのは、13年前の2008年「かけはし



都筑」で教えていた傾聴勉強会でした。クラブとして「傾聴」を学び地域ボランティア活動に活かして行きたいと伺い、2009年に「より良い聴き手になるために」講座を担当させて頂きました。2010年には「みんなが楽しめるバリアフリーの素敵なコンサートを立ち上げましょうよ!!」とお誘いを受け、その熱いミッションに共感し「You & Iコンサート～あなたとわたし 障がい児・者とともに～」の運営委員となりました。毎年Y'sの活動の輪は広がり、2011年東日本大震災の時には被災地での傾聴活動に出て行かれ老人施設や保育園を定期訪問され、隣人に仕え続ける皆さまの姿には頭がさがる思いでした。

Yokohama-Tsuzuki Y's Men & Women's Clubの名前の謎は、「あえてメン&ウィメンズと名付けたのは、ジェンダーバイアスの無い活動をしていく方針なんですよ。」の言葉で解け、なんと先駆的なシニアの団体かと驚きました。

私も今年シニアの仲間入りをして、改めてY'sの皆さまを思うと、男性も女性も生き活きとされ、人と関わり共に生きる「いのちに仕える」大切な活動を作り上げて来られたのだなと実感します。創立15周年、おめでとうございます!!

みんなの家

中村真知子



15年前、ワイズさんが活動を開始なさったのと時同じくして【みんなの家】もここ都筑の地で産声を上げました。『全ての人に分け隔てなく、いたわりあい暮らしにいける社会に近づきたい』という同じ思いが、『さおちゃん』という名前の小さな可愛いお嬢さんを通して二つのグループを出会わせてくれました。それから15年、チャリティーラン、バザー、コンサートなどなど本当にたくさんの活動を一緒に楽しませていただきました。みんなの家の行事にも積極的にご参加くださり、私共も兄とも姉とも思い、頼りにさせていただいてきました。

【みんなの家】は<複合的福祉共生住宅>としての実験住宅です。<共生>という本当の意味を、ワイズの皆さんの生き方や実践を通して学ばせていただきました。これからもいいただいたこのご縁を大切に共に生きていかせてください。

横浜室内合奏団

代表 佐藤大祐

横浜室内合奏団の佐藤大祐と申します。今まで9回のYou & Iコンサートに出演させて頂きました。ワイズメン&ウィメンズクラブの皆様との出会いは大和で開催されていた輪和Waコンサートに出演させていただいた時だったと思います。私達もこのコンサートの様なへんてこりんな面白いバリアフリーコンサートを開催したいというものでした。もちろんへんてこりんなという言葉ではなくこの様な素晴らしいコンサートをと言うお話でしたが横浜室内合奏団のコンサートの目的は皆さんに楽しかったまた来たいと思ってもらう事の一点です。そこをワイズメン&ウィメンズクラブの皆様にご認めて頂いた事がとても嬉しかった事を鮮明に覚えています。その後回数を重ね昨年10回目の記念すべきコンサートのはずでしたがコロナの影響で延期になってしまいました…ベートーヴェンは第9の交響曲が最後になってしまいましたし9番を超えられなかった作曲家は結構いるんです…さあ、来年ベートーヴェンを超える事を目標に頑張りたいと思います!



私たちの活動の基礎となるYMCAとの連携で大切な役割を担ってくれるのは担当主事です。過去15年間、仲間として一緒に働き交わってくれた5人の担当主事(含・現役)からもメッセージが届きました。

《初代担当主事》

渡辺誠二



創

立15周年おめでとうございます。さて産声は上げましたが、

都筑地区にはYMCA拠点がなく、北YMCAとの連携という旅立ちでした。当時の他のY'sとは異なり、独自の方針で地域に寄添う姿勢は頼もしいところでした。地域にある多様な市民活動とも連動した視野の広さは、Y M C Aそのものを体現するよう思われました。さて、このコロナ感染症が依然として猛威を振るっている中での活動はいかがでしょうか。渡辺は日本のロータリークラブに機関誌を発行する事務所におりますが、全国から届く活動報告は、寄付・寄贈活動が多く、汗を流すような事例は減少しています。地域の課題に取り組んでいる多くの団体も同様な状況ではないでしょうか。Y M C Aとの共感関係、対話を維持しつつ、祈りつつ活動することは、弱くされている地域の仲間の良き理解者で協力者であり寄添うことができます。どうぞオーブネスを発揮しての益々のご活躍を期待します。

《3代目担当主事》

生井友三

15周年おめでとうございます！

横

浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブの皆さま！15周年まことにおめでとうございます。心よりお祝い申し上げます！

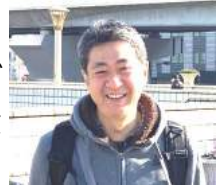
ここまでのあゆみの中で、様々な地域に対してのご奉仕や国際協力支援活動、ダイバーシティへの取り組みなど、多くの活動にご尽力されてこられましたこと！これぞ『ワイズメンズクラブの活動』であるといつも感じておりました。その取り組む活動や事業を通して、社会への奉仕、青少年育成も含めYMCAへの支援と協働など、素晴らしい活動ばかりです！

さらには、新クラブ設立の活動支援をはじめとした組織の強化など、どの取り組みもエネルギーに関わられていたことを強く覚えております。そして、いつも勉強させていただいておりました。

わたくしが皆さまと関わりを持たせていただきましたのは、担当主事として2014年5月23日の例会に参加させていただいてからとなり、そこからとなります。(以下次頁へ)

《2代目担当主事》

山添訓



横

浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ15周年おめでとうございます。

2010年4月～2014年3月まで担当主事として関わらせていただきました。

振り返ると、横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ5周年、ワイズ国際大会が横浜で行われ、第1回北YMCAとの交流会、第1回You&Iコンサートが行われ、東日本大震災後の被災地支援など、今も続けられている活動の最初の時に関わっていたのだと、改めて思いました。

毎年5月に行われる富士山例会では、いつも以上に「しゅに交わる」時間を過ごし、より皆様との関係を深める機会となりました。

北YMCAとの交流会は、YMCAをサポートするワイズメンズクラブとして、職員との交流会を行いたいと言っていたが、わざわざ菊名までお越しいただくことになりましたが、毎年、大勢参加していただき、会を行うことができました。YMCA職員にとっても、バザーなどでしかお会いすることがなかった、ワイズのメンバーと食事を共にして、交流できたことは、良き時間だったと思います。常日頃から、人生の先輩であり、社会人としても先輩である、多くの賜物を持っているワイズメンと交流する機会は、とても貴重なことだと思っています。

You&Iコンサートは、障がいのある人もない人も世代も越えて、誰もが楽しめるコンサートとして始まりました。第1回目の時に、何人の方が来てくださるのか、不安でしたが400人近くの方が集まった会場を見て、横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブがいかに地域の人たちとつながった働きを日常から行っているのを感じる時でした。今は、コロナ禍にあり、コンサートを行えない状況ですが、また再開できることを信じて待ちたいと思います。

東日本大震災復興支援活動は、被災地訪問や誕生日カードを送ることなど、今も継続して行っていることは、頭が下がります。私もみやま荘に訪問させていただきましたが、少しでも何か寄り添うことができればと思って訪問したのですが、逆に勇気づけられて帰ってきたことを今でも思い出します。

最後に、これからも隣人のために活動を続けるクラブとして、神様の豊かなお恵みとお導きがあるようにお祈りいたします。

(前頁より) 当時の会長 今城宏子さんや皆さまに見守られながら入会式を行っていただきましたこと、その会の例会卓話では、『緩和ケア』についてのお話を昭和大学の先生からいただいたこと、今でも覚えております。

さらには、2016年5月に富士山YMCAにて開催され、私も参加させていただきました『10周年記念例会』も思い出されます！本当に楽しかったですよね。たくさんの思い出の中でも、この例会のことが記憶に残っております。

真面目に会を持ちつつも、『遊び』も忘れることなく、皆さんで、よく食べ！よく歌い！よく飲み！よく楽しんだ！とにかく、“なが〜い夜”を皆さんと過ごさせていただいたと記憶しております。

翌朝の礼拝では、相賀牧師からのメッセージと讃美歌301（讃美歌21 155）を皆さんと一緒に富士山YMCAのテラスにて讃美したことも印象深く覚えております。とても楽しかった思い出です。

どの例会でも、真面目に活動について話し合い、準備し、どの活動でも、多くの方々を巻き込んで、そして、活動の輪を大きく広げていかれる皆さんの働きに、多くを学ばせていただいております。いつもそこで感じていたことは、『自分を愛するように隣人を愛す』という聖句でもありました。

ワイズメンズクラブとYMCAの両者はパートナーの関係であり、その関係を常に大切にしてくださっていたと感じておりました。さらには、担当主事をとにかく大事に、大切にくださったクラブであったと感じております。皆さんとの時間にあらためて感謝を覚えます。

限られた時間ではありましたが、担当主事交代後もクラブに在籍をさせていただき、地域とともに活動を進め、そこにあるたくさんの笑顔大切にされているクラブの方々と一緒にあったことが、今うれしい思い出の時間です。You & I コンサート、チャリティーラン、教会でのBBQ、もちろん毎月の例会が本当に楽しみでした！※イベント後や例会のあとの交流会は、特に楽しみでした！

TKBの皆さまのやさしさとTKOJm（かわいいおじちゃん）のパワフルさが懐かしいです。

どうぞこれからも皆様のお働きが、ますます主に祝福されますとともに、さらに多くの笑顔とともに広がっていきますよう！そして、ワイズダムの推進を担っておられる皆様の上に、豊かな恵みがさらに注がれますよう、お祈りしております。

主とともに （2021年5月13日）

《4代目担当主事》

山中奈子

創立15周年おめでとうございます。私が横浜北YMCAに勤務していた2008年4月から2020年3月まで、つづきワイズメン&ウィメンズクラブの皆様には娘のようにかわいがっていただきました。特に2018年からの2年間は担当主事としてかかわらせていただきました。

私にとって一番の思い出は「You&I コンサート」での一場面です。ミーティングの中で「子どもたちと一緒に舞台にあがれないか…」との一言で「さんぽ」に合わせて行進をすることになりました。最初は「誰も来ないのでは…」と心配でしたが、そんな心配は無用でした。たくさん子どもたちが集まり、元気に行進をすることができました。舞台から降りたくない子どもがいた時も、皆さんがゆっくりと待ってくださっている様子を見て、このコンサートの本当の意味を感じました。

つづきクラブの皆さんの温かいおもてなしの心といくつになっても学びを止めない姿を心から尊敬しています。これからも未永い活動と皆様のご健康をお祈りいたします。



《5代目担当主事》

横浜北YMCA 館長 鴨下純久

創立15周年に寄せて

横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ創立15周年おめでとうございます。



以前、横浜クラブ、横浜つづきクラブの担当主事を務めましたので、横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブは、私自身3つ目のクラブの担当主事となります。所変われば雰囲気も変わると言いますが、例会で食事を摂らないクラブを初めて経験しています。例会の後の全員での食事会が何より楽しい時間とお聞きしています。残念ながら、担当主事を務め始めた時は、緊急事態宣言が発出されたばかりで、皆さんで食事を摂ることができない状況でした。そのことは、この原稿を執筆中（2021年5月）も継続しています。また、コロナ禍の影響により、例年実施しているイベントの中止が続いています。しかし、今を充電期間として、いつでも動けるように横浜北YMCAと協働して地域や社会の課題に向き合い、You & I コンサートやバザーなどの準備を進められたらと思います。そして、一日も早く、皆さんで楽しい食事会ができる日が来ることを願っています。

創立15周年にあたり、クラブメンバーが一言のメッセージを寄せました。

「ひとつ。自分を愛するよう…」

相賀昇



私 たちはかれこれ一年以上、これまでの日常や当たり前がそうでなくなった現実に耐えながら、まさにコロナ禍にほんろうされるなかでクラブ創立15周年を迎えております。しかしそれだけに「ひとつ。自分を愛するよう隣人を愛そう…」と、共に唱える「ワイズの信条」が心を励まし、力強く迫ってまいります。おそらくこの第1項は「…あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」(ルカ10・27)に由来するものでありましょう。イエス様はこのお言葉を「善いサマリア人」のたとえのなかで語られ、最後に「行って、あなたも同じようにしなさい」と結んでおられます。ともすれば意気消沈しがちな日々ですが、ワイズの信条とソングに励まされつつ、これからも「行って、おなじように」できるクラブとしてますます前進できるようお願いしております。

活動再開を期して！

今城高之



我 がつづきクラブがこの地に根を下ろして15年が過ぎました。その間メンバーの出入りはあったものの、チャーター当時とほぼ変わらぬ人員に恵まれ、これまで地域のための活動を継続してこられたことは感謝です。とはいえ、最近入会した1名を除く全員が後期高齢者ということで、自慢にはなりません。東日本区でも有数の平均年齢の高さを誇って？います。15年の間、様々なプログラムに取り組んできました。その中でも、5月の富士山例会、9月のYou & I コンサート、秋のバス旅行などは年中行事として定着しました。毎年2月の横浜北YMCAとの交流会も恒例となっています。ここ1年半ばかりは、これら全てがキャンセルとなり寂しい限りですが、コロナ禍の収束を待って直ちに復活させたいと思いません。最後になりましたが、我々のクラブには、地元には様々な仲間がいることが自慢です。地域の人々のために一緒に働く仲間との絆をますます強め、もう少し頑張ってみようと思う今日この頃です。

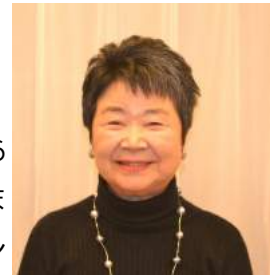
今城宏子



1 5年を振り返って思うことは月日の経つのが速いこと！あまりに色々な経験をさせて頂いて、忘れていたことも少なからずあります。その中で印象に残っているいくつかを挙げれば、横浜での世界大会に訳も分からず参加し、Y'sの国際的な働きを実感したことや、東日本大震災の被災地を訪問し心傷んだこと、クラブの5周年を記念してスタートした“YOU & I コンサート”が震災復興のチャリティコンサートとして続けられていること、移動例会や富士山例会でメンバーの絆をふかめたことなどが思い浮かびます。また、横浜YMCAのチャリティランや会員大会のお手伝い、北YMCAとの交流会等を通してY'sの仲間の方々はもとより、YMCAの若い方々との交流も得難い経験となっています。Y'sの信条にあるように、地域の中での「みんなの家」「アーモンド」などNPO法人の方々との交流、グループホーム「すぷーん」でのボランティア活動はずっと大切に続けていきたいと願っています。すべてに感謝して。

15周年に思うこと

岡崎さよ子



2 012年3月の入会式から9年、感慨深い年月となりました。何の知識もなくワイズメンバーとなり、事務例会で初めて教会の門をくぐり、教会椅子の硬さを知りました。ワイズメンズクラブ15年の歴史は、一重に会長以下役員のご努力とプリテンの継続によるものと確信しております。プリテンはつづきワイズメンズクラブの歴史と言っても過言ではないと思います。この度、事情があって暫く休会させていただきます今、俳句の駄句を並べることしかできません。

リラ冷えや 教会椅子の 小座布団
ドクダミや 百まで生きる 話して
夏来る みどり楽しむ てふ会に
緑道で 街が繋がる ニュータウン

岡田美和



ワイズメンズクラブでは活動を通して多くの人たちと交わりつながることができました。60歳を過ぎて入会し、若い気持ちで理想をもって活動できました。

東日本区大会の夕食会では同じ思いの人たちと交わり良い時間を持ってました。つながるということは、笑顔を交わしたり、握手したり、挨拶したり話すことも、

つづきクラブでは素晴らしい人たちに会えました。例会はワイズダムの基本、チャプレンの言葉、卓話や話し合いなどしています。その後の親睦会は楽しい場です。特別例会は富士山例会・移動例会・クリスマス会・BBQ会など。CS活動では「YOU & I コンサート」・傾聴ボラ・被災地支援のカード作り・福祉農園など、また北YMCAとの共働ではチャリティーラン・北Yまつり・バザー・うたごえ広場などで大勢の人とつながれました。

15年間の交わりつながりで培ってきたものを根っこに、これからも元気に楽しく年を重ねていきたいと思っています。

胡麻尻眞佐



入会して4年目になります。神戸でYWCAの茶道教室で学んだり「婦人の友」読者友の会に入会して初めて聖書と讃美歌を手にし

ました。夫の転勤に伴い、東久留米の社宅に入居して数年後横浜に移り、友の会は辞しました。近くに住む友人に誘われ、聖書のグループに参加したりしましたが、信者にはなれませんでした。が、友人たちとボランティアのグループを作り、老人ホームを訪ねたりしました。数年後私は変形性股関節症を患い、何度も手術を受け活動が出来なくなり、また、友人たちも各々忙しくなり活動も終わりました。現在、夫の逝去一週間後から目の難病の加齢黄斑変性の治療が始まり、右目30回、左目は13回の注射治療を受けていますが、両目合わせて0.3位の視力しかなく、細かな字を読むことが不可能です。現在、「要支援2」の支援を受けて、何とか自立の生活をしています。夫の中学からの親友の米谷氏が今城さんの古いお知り合いと伺い、会に親近感を感じています。米谷氏も2年前に亡くなられたので、今頃は天国で夫と麻雀かゴルフを愉しんでいるかと思ったりしています。

杉本千津子



学生時代にはワークキャンプやYWCAでの活動に参加した

りもしましたが、社会に出て、結婚して子育てに励み、長い海外生活を経て、何もかもがゆっくりと進み始めた矢先、連れ合いが病を得、その後介護の甲斐もなく天に召された頃、私も後期高齢者になっておりました。若いころから親しんだダンスも体力的に難しく、天職と思って続けていた英語教室は教える方も生徒も共に高齢化、さて残る日々をどう過ごそうかと思っていたところ、弟夫婦の誘いにより「つづきワイズ」なるものに参加しました。この歳になって新しい友達を得ることはなかなか経験できないことで、プログラムの全てに参加することは叶いませんが、月に一度の例会が格好の刺激となり、新しいお交わりを楽しんできました。そんな矢先のコロナ禍により行動範囲は狭められ、ワイズの活動からも遠ざかっておりますが、必ずや元のような日々が戻ることを信じてひたすら待つこの頃です。

つづきクラブに入会して

鈴木恭子



つづきクラブが15周年を迎えるにあたり、私はワイズへの気持ちを振り返ってみました。

私のYMCAとの出会いは、入学した高校で、相沢安正という先生が顧問をされていたHiYクラブに入会した事から始まりました。先生とお交わりは一昨年101歳で天に召されるまで続きました。つづきクラブが出来て夫と共に入会した時、先生はとても喜んで下さいました。

つづきクラブ会員の皆さんは社会で活躍してこられた個性豊かな方々でした。その中で私は社会に出て働いた経験がありません。活動内容も理解できない内に、横浜で開かれた世界大会へ参加したことやクラブ例会後の帰宅が遅くなることなどが私には負担でした。数年前、久しぶりに先生をお訪ねしてお話をするうちに、私の気持ちは変わりました。その後、「みんなの家」や東日本大震災被災地の方々との交わりなど、私が参加できる場が増えてきました。今、私は一人一人が違った力を出しあって同じ目標に向かい共に歩むつづきクラブは素晴らしいと思いきなり楽しみました。

つづきクラブと共に15年

鈴木 茂



横 浜つづきクラブが創立15周年を迎え、クラブと共に歩んできたこの歳月を振り返りますと、誠に感慨深いものがあります。林 茂博さんに誘われて私がワイズに入ったのは69歳の時でしたが、これを契機に私には、クラブや湘南・沖縄部そして東日本区のワイズの方々との新しい交友が生まれ、それまで全く知らなかった人生が開けてきました。さらに、YMCAとの関りも広がって、横浜YMCAの常議員やYMCA史学会理事等の役割も入り、週の半分以上はワイズかYMCAに関連した日常生活が中心となりました。その結果、私が描いていた定年後あるいは老後の人生が一変してしまいました。それまで想定していなかった新しい世界を経験したという点では、私の人生が豊かになったと感謝しています。しかしここに来て、クラブの中のみならずワイズの世界を見回しますと、ほとんどの方々が高齢で、このまま放置すると先細りは絶対に避けられません。15周年を迎え、改めて会員増強の意義を痛感しています。

福島佐世子



横 浜つづきワイズに入れて頂いて10年余りになります。子どもたちも独立し、何か次の人生を考えなければと思っているときに学生時代に神戸YMCAのキャンプでリーダー仲間だった今城さん夫妻からお誘いいただき、「とりあえず」と思って参加させて頂きましたが、居心地のいい場所で、結局現在まで会員を続けています。参加したばかりの頃は、訳の分からないことばかりで夢中になって皆さんについて行こうとしていた日々でした。富士山例会や暑気払い例会でのBBQ、移動例会でのブドウ狩り、チャリラン等々、楽しいプログラムばかりが頭に、心に残っています。その間に、思いもしなかった夫の介護が大変な日々となってしまいましたが、ワイズに在籍させて頂いているお陰で、皆さんからの優しい後押しがあり、苦境も乗り切れそうな気がしています。歳には関係なく、その時々「青春」を楽しもう、と思いながら、改めて自分の居場所になっているつづきワイズの仲間感謝しています。

ワイズに参加して

辻 孝子



林 茂博さんが家に来られ、ワイズへのお誘いを受けたのが昨日のように思われます。右も左もわからず入会したワイズですが、もう15年もたつたとは夢のようです。初めてYOU & I コンサートが実現できたときの感激は今でもよく覚えています。ここ最近では体を壊してなんの奉仕もできず大変残念ですが、素晴らしい仲間ができたことが、何よりの幸せなことです。これから先も皆さんとお付き合いを大切に過ごせたらとせつに願っています。

ワイズに参加して

辻 剛



横 浜つづきクラブにチャーターメンバーとして夫婦で入会させて頂き早や15年がたちましたが、振り返りますと“感謝”の気持ちでいっぱいです。お陰様で定年退職後の人生も大変素晴らしい日々を送ることができました。第1に、新たに多くの知人、友人に恵まれました。クラブ、部、区、国際とそれぞれの分野で素晴らしい仲間に出会いました。この方々は私たちにとって宝物となりました。ワイズに参加していなかったら、現役時代の同僚や同業他社の親しくしていた知人などと細々とお付き合いをしながら人生終わったかもしれません。第2に、ワイズの素晴らしい理念、「愛と奉仕の教え」にもとづき仲間と微力ながらYMCAや地域にたいする奉仕活動をともにできたことです。ささやかな奉仕でもだれかのお役にたっていると思えることは大変新鮮でした。奉仕をとおしてさらに新しい仲間との出会いもあり、ますます充実したクラブライフをおくることができました。第3は、奥方の孝子ワイズと一緒に入会したことが大正解でした。クラブ設立時6組の夫婦会員が参加し大変親しくなりました。現役時代はほとんど自宅で夕食をとることもなく、奥さんは“おひとりさま”のような日々を送っていましたが、ワイズの行事や活動にはできるだけ夫婦で参加し、ふたり一緒の時間が沢山出来たと感謝しています。残された人生もワイズに浸りながら終えたいと願っています。

メンバーとして

山添訓



最 近は、例会に参加できない放蕩息子で申し訳ございませ

ん。ブリテンはいつも楽しみに読ませていただいております。

横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブに関わってから10年、思い返すとあつというまででした。例会では、普段聞くことができない内容の卓話を聞き、その後の親睦の時には、YMCAのことを熱く語ったり、人生の先輩として訓示を受けたりと、とても充実した時間でした。

つづきの皆様は、横浜YMCA会員総会や会員大会、クリスマス礼拝・祝会にも大勢参加していただくなど、いつもYMCAをサポートすることを大切に考えてくださいました。そんなクラブに誇りを感じます。

これからも、末永くクラブ活動ができるように歩んでいきたいと思えます。放蕩息子は、いずれ家に帰ります。

林 茂博・理子



1 975年私たちは沼津クラブにメン・メネットとして入会して以来、東京目

黒・仙台・東京コスモスと四つのクラブを経て、横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブのチャーターメンバーになりました。クラブ創立15周年を迎え、ワイズライフ46年となったわけで、まあよく続いたものだ感慨深いものがあります。とは言え、茂博は2017年1月に肺腺癌で左肺の半分を切除する手術、理子は2018年8月に背・腰骨の矯正手術で筋金を骨に20本のネジで止める大手術を受けたために休会せざるを得ない状態になりました。いまだに二人ともリハビリに励んでおりますが、茂博は2019年7月に復帰がかない、理子もあと少しのリハビリで復帰できそうな状態まで回復してきました。

老化の進行に加え、手術で失った機能の影響で、昨年までできたことができなくなっていく現実を受け止めながら、まだ残されたできることを、できるときに、無理をせずに継続してゆきたいと話合っています。終の棲家ならぬ「終のクラブライフ」を二人で楽しんでいきたいと願っています。



横田孝久



早 いものでクラブも15周年です。小生があるきっかけで入会したのは2007年8月でした。

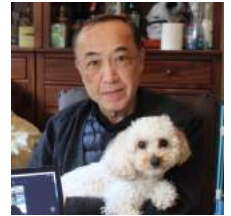
そう云えばクラブ設立の2年目だと当時知りました。

もう14年が経っているわけですが、さて、振り返って活動に対する自己評価はゼロ点かなと考えています。何の貢献もできていません。

しかし、自分なりに居心地のよいクラブで、メンバーに恵まれご指導も受け少しは地域のCS活動にも参加し、多くの人達との交流を通じて特に老後の人生に新しい異文化を吸収できている事は感謝しています。

思えば確か2007年2月頃に鈴木 茂さんから老人の飲み会集団があるから来ないかと誘いを受けたことが始まりでした。YMCAとの交わりも懐かしく例会はさておき、例会後の親睦は本当に楽しい時間です。それがコロナ禍本当に憂うつです。ZOOM会議も嫌です。早く収束して元のクラブライフに戻ることを祈りつつ、携わる皆様に感謝を申し上げながら振り返りとします。

坂口直樹



本 年1月に入会させていただきました。栄えある15周年記念の年に新人としてクラブに入会

できたこと大変嬉しく思います。入会の動機などChange! 2022"ニュースレターNo.23に掲載させていただきましたが、YMCAとの縁、ご近所のご縁など偶然のめぐり合わせか、いや生きていくことはすべて計画されたことなのか、いずれにしても素晴らしい人間力のある方々とご一緒できるのが大変楽しみです。私が仕事関係などでこれまでお会いした方が約5千人、友人知人同級生同窓生同期など合わせても1万人程度ですが、世界を見渡せば78億人、1億2千万人の日本の人口からすれば一生のうちに会う人はごく限られています。その意味でワイズでの“めぐり合わせ”は奇跡です。この出会いを大切に、お互いを尊重し知識を高め、かつ奉仕することの「しあわせ」を感じます。これからもつづきワイズメン&ウィメンズクラブに積極的に参加して楽しい時間と奉仕の心を満たしていきたいと思えます。

(写真：愛犬アルト君と)

《15周年記念例会報告》

日時 5月28日(金) 17:00~19:00

場所 かけはし都筑

出席者：(会場)相賀、今城T・H、岡田、岡崎、鴨下
胡麻尻、坂口、鈴木K・S、辻T・Ts、林S・M
福島、横田 (ZOOM)杉本、山添

ビジター：(会場)田口努、古賀健一郎(横浜)

権藤徳彦(東京町田コスモス)

佐藤節子(厚木)、久保勝昭、中村純子

久米康子(つるみ)、

(ZOOM)栗本次郎(熱海) 佐藤茂美(東京)

日下部美幸(厚木)、大久保知宏(うつのみや)

大高治(横浜)、石田孝次(多摩みなみ)

小原史奈子(たんぼぼ)、長谷川あや子(八王子)

ゲスト：(会場)高松満至、(ZOOM)水田秀子

◎会場24名、ZOOM11名/全35名 (以上敬称略)

～概要～

- ◇鈴木会長による点鐘で開会し、全員でワイズソング・ワイズの信条を唱和
- ◇相賀牧師による聖書朗読：テサロニケ5：12-13 (2021年度横浜YMCA主題聖句)と祈禱。
- ◇会長が挨拶に立ち、頼りない高齢者集団が長きにわたり活動を続けてこられたのはYMCAならびにワイズの仲間のご支援の賜物と謝辞を述べた。
- ◇司会者がビジター、ゲストを紹介し、困難な折に参加いただいたことに感謝を述べた。
- ◇石巻広域クラブ清水ワイズが連帯のメッセージを寄せ、当日同時間に同クラブの5周年が祝われているとのこと。
- ◇田口努氏 (同盟総主事) が「コロナ禍のYMCA、一年の振り返りとこれから」と題し、コロナ禍により全国のYMCAが極めて厳しい状況におかれている中、日本YMCAが進めるコロナ禍の危機対策と未来への選択について熱く語って頂いた。
- * 東山荘で過ごした子供たちの作文には再三「安心・安全」が述べられている。安心・安全が教育と実感される。
- * YMCAが休館中の昨年、感染予防と感染者を差別しないことでオンラインの事業再開を訴える。
- * ネットによる共同の祈りと「離れていても繋がっている」コンサートを世界に発信。
- * 全国のYMCA240施設の内183が活動継続 (76%)

- * 宿泊を伴う事業 (研修センター・野外活動等)、日本語学校への影響が特に心配。
- * 財政的打撃は著しく、3億円規模の減収が見られるが、様々な支援措置、募金の活用で財政再建を図る。
- * アマゾンとのコラボレーションなどを生かし、新しい形の寄付の相方を探る。
- * 企業や行政とのパートナーシップにより地域社会の課題に対処。
- * 自分の変化を世界の変化に“Change Agent”の育成に傾注。
- * 多様性を認める社会実現のためにテクノロジーの活用。オンラインコミュニティプラットフォームの構築を図る。
- * 日本YMCA中期計画標語「光は闇の中で輝いている」で社会のネガティブを見据えての活動展開。
- * 全人一貫教育の価値最大化で社会の健康をめざす。
- * 若い世代が夢を持ち自己実現のために参加できる社会の創造。若者の信頼できるパートナーとして。
- ◇林ワイズが「写真で綴る横浜つづきクラブ15年の歩み」と題するフォトセッションを行った。当クラブ創設に中心的役割を果たした林ワイズの熱のこもったプレゼンに感謝。
- ◇今後の行事予定他の事務的案件的案件処理の後Happy Birthdayで岡崎さよ子さん、林理子さん、鈴木茂さんの誕生日を祝した。
- ◇会長が参加者全員、特に遠方からの方、ZOOM参加の方々への感謝の言葉の後閉会点鐘で閉会。(今城T 記)



あとがき
 プリテン第180号が完成しました。これまでの15年間、励まし育てて下さったクラブのメンバー、全国のワイズ、その他読者の方々に心より感謝申し上げます。本号にメッセージを載せることが出来なかつたメンバーが一人います。2016年6月に入会した三木直子さんです。直子さんは去る5月8日、最愛のご主人、紀昭さんを神様の御もとに送られたばかりで、お気持ちも未だ癒えず、また様々な後始末にも忙殺されておられ原稿をご準備いただくことが出来ませんでした。何度も我々の行事に参加してくれた紀昭さんが神様の御もとで安らかに過ごされよう、直子さんが一日も早く癒され、クラブ活動に復帰される日が来ますよう、心よりお祈りいたします。





写真で綴る15年間